

# 男女平等に関する市民意識調査 結果報告書(抜粋)

【出典】

男女平等に関する市民意識調査  
(日進市/令和6年度実施)

1

## 【調査項目】

1 結婚、家庭、地域生活に関する意識について

2 社会参加・参画について

3 子どもの教育について

4 男女平等・人権意識について

5 男女共同参画等に関する用語について

6 行政の取り組みについて

2

## 【調査目的】

男女平等の推進に関して、市内にお住まいの皆様の意識や実態を把握し、第3次日進市男女平等推進プラン中間見直しの基礎資料とする目的で実施した。

## 【調査対象及び調査方法】

	市民調査	こども調査
調査対象者	市内在住の満18歳以上の男女(令和6(2024)年4月現在) ※無作為抽出	市内の公立学校に通う小学5年生～中学3年生の男女
調査票配布数	男女各1,500人(計3,000人)	1,542人
調査期間	令和6年10月24日～令和6年12月18日	令和6年7月1日～令和6年8月22日
調査方法	郵送配付、回収は郵送方式及びWEB回答方式	WEB回答方式

## 【回収結果】

	配付数	回収数	有効回収数	有効回収率
市民調査	3,000	1,332	1,330	44.3%
こども調査	1,542	856	856	55.5%

3

# 1 結婚、家庭、地域生活に関する意識について

## 【役割分担】

主に女性が担当 : 家事・育児・介護

主に男性が担当 : 重要事項の方針決定

## 前回調査との比較

・「主に女性」が増加している項目はなく、「食事の支度」「掃除・洗濯」「家計の管理」など5ポイント以上減少している。

・「男女同じ程度に担当」の割合は、増加している。

## 【男女間の認識差】

女性の認識 : 『主に男性』担当は1割未満

男性の認識 : 『主に男性』担当は約1割

→ 男性の家事参加状況の認識に男女差あり

## 【性別役割分担意識】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」

「賛成」 32.7% < 「反対」 50.1%

前回調査との比較 6.5%減少

性別で比較すると…

賛成 女性30.0%、男性36.6%

性・年代別で比較すると…

男女とも「70歳以上」で「賛成」の割合が高い。

5

## 【平日の家事・育児・介護負担の男女差】



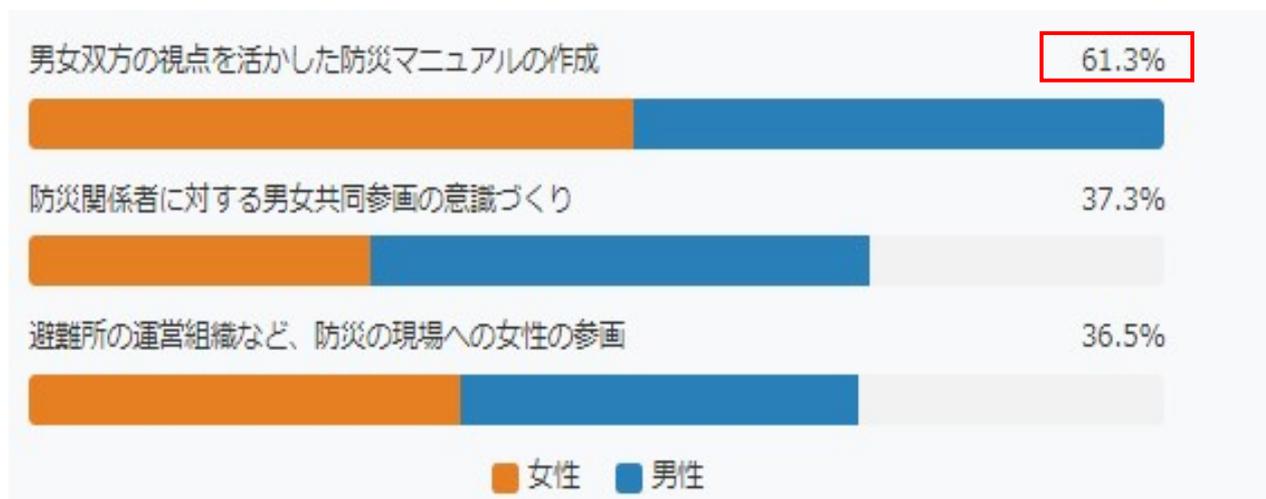
→ 平日の家事・育児・介護負担は女性に偏っている。

## 【男性の家事・子育て等への参加を進めるために重要なこと】

- |  |       |
|--|-------|
| 1 子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う<br>必要性を教える | 50.8% |
| 2 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る                 | 46.5% |
| 3 働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てる<br>ようにする    | 45.4% |

6

## 【地域における男女共同参画の視点からの防災体制の整備】



7

## 【地域における男女共同参画の視点からの防災体制の整備】

- ◆「防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり」 37.3%
- ◆「市の防災会議、災害対策本部など、方針決定の場での女性の積極的な登用」 33.9%
- ◆「防災や災害現場で活動する女性の育成」 22.3%
- ◆「自治会等で責任ある立場に就くなど、地域活動における意思決定の場への女性の参画」 22.1%

8

## 【課題】

- ☑ 家庭内における仕事の役割については、家事・育児・介護は女性が中心で、重要事項の決定は男性が中心という、固定的性別役割分担意識が顕著に現れている。
- ☑ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という項目で、「賛成」の割合は前回より6.5ポイント減少したが、依然として固定的性別役割分担意識が見られる。

9

## 2 社会参加・参画について

## 【女性が就業することについて】

『職業継続型』  
50.5%結婚・出産に関わらず  
就業継続がよい『中断再就職型』  
31.6%子どもができたら  
一度就職し再就職→前回調査より7.1ポイント増加  
初めて50%超→ポイントの増加は、  
男性で特に顕著

## 【働き続けたいができなかった経験】

女性 30.9%

男子 11.6%

→前回調査よりやや減少

## 【『育児休業制度』取得率】

12.1%

→前回調査よりやや増加

## 【男女間の差異】

## 男性

『職業継続型』の割合が大幅増加  
 前回調査との比較 **11.1ポイントアップ**

- ・働き続けたいができなかった経験11.6%
- ・働けない理由(上位)  
健康上の問題、リストラ・定年

## 女性

『職業継続型』の割合も増加

- ・働き続けたいができなかった経験 30.9%
- ・働けない理由：**多様なハードルあり**
  - ・育児で預けられる施設やサービスが不十分
  - ・就業や家事分担に対する配偶者・パートナーや家族の理解が得られなかった
  - ・結婚や育児に対する会社の理解や制度が不足していた

## 【休業・休暇制度を利用しなかった理由】

- |                        |       |
|------------------------|-------|
| 1 仕事量や責任が大きく、同僚に迷惑をかける | 44.6% |
| 2 職場で取得しにくい雰囲気がある      | 31.6% |
| 3 これまで同じ職場で取得した事例がない   | 27.5% |

11

## 【課題】

女性が就業することに対する意識は高くなっている中、

- ☑ 女性の「働き続けたいができなかった」割合が高い  
 女性は30.9%と男性11.6%の約3倍の割合で就業継続の障壁を経験している。
- ☑ 女性は働き続けるための障壁が多様  
 女性の就業継続を妨げる要因は単一ではなく、職場環境、家庭状況、社会制度など複合的な要素が影響している。
- ☑ 休業・休暇取得の障壁は性別によって異なる  
 男性は「仕事量や責任」「経済的理由」、女性は「職場復帰への不安」など、性別によって異なる障壁が存在している。

### 3 子どもの教育について

【「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」と回答した割合】

「区別せず育てた方がよい」 45.9% ↑

前回調査との比較 38.1%  
+7.8ポイント増加

13

【男の子と女の子の育て方について】

男女とも「区別せず育てた方がよい」が最も高くなっているが、

<p><b>男性</b></p> <p>28.6%</p> <p>男らしく・女らしく 育てた方がよい</p>	<p><b>女性</b></p> <p>9.4%</p> <p>男らしく・女らしく 育てた方がよい</p>
--	---



男性の方が  
「男らしさ」「女らしさ」に  
とらわれる傾向が強いことが  
うかがえる。

14

## 【子どもに身につけてほしいと思うこと】

「区別せず育てた方がよい」と回答した人でも…



### 女の子への期待

- 優しさ・思いやり
- 明るい・素直さ

### 男の子への期待

- 決断力・行動力
- 社会性・積極性
- 経済力



性別による期待や役割意識が無意識に残存

**アンコンシャス・バイアス  
(無意識の思い込み)**

## 【学校教育で力を入れるべきこと(上位3項目)】

1位	関連授業の充実	52.6%
2位	生活指導・進路指導での配慮	45.8%
3位	性別による固定的な習慣の解消	41.0%

## 【課題】

- ☑ 「性別で区別せず育てる」意識は増加傾向であるが、無意識の思い込みや性別役割意識は依然として根強い
- ☑ 男性の方が伝統的な性別役割意識を持ちやすい
- ☑ 教育現場や家庭での働きかけが重要
- ☑ 固定観念の解消、無意識の思い込みへの気づきが今後の課題

17

## 4 男女平等・人権意識について

## 【分野別の男女平等感(「男性優遇」と感じる割合)】



- ・女性は全分野で男性より平等感が低い
- ・年代が上がるほど「男性優遇」と感じる割合が高い
- ・若年層ほど平等感が高い

→性別・年代別の差異あり

## 前回調査との比較

- ↓ 「男性優遇」意識が減少  
「社会全体」「家庭生活」「学校教育の場」「職場」
- ↑ 「男性優遇」意識が増加  
「地域活動の場」「法律や制度上」「政治の場」「社会通念やしきたり」

18

## 【セクハラ被害の実態】

被害を受けた人はいない	38.6%
わからない	25.9%
知り合いの女性が被害	18.3%
自分が直接被害を受けたことがある	15.0%

- ・女性の約4人に1人(24.2%)が被害経験
- ・男性の被害報告はほとんどなし

## 【パワハラ被害の実態と男女差】

自分が直接被害を受けたことがある	26.2%
被害を受けた人はいない	24.7%
わからない	22.3%
知り合いの男性が被害を受けていた	20.8%
知り合いの女性が被害を受けていた	11.7%

- ・男女とも約4人に1(26.2%)が被害経験

19

## 【DV被害の実態と種類別傾向】

身体的暴力より精神的暴力の割合が高い



「一度以上ある」人の割合

◆命令口調・侮辱	27.2%
◆大声で怒鳴られる	24.8%
◆長期間無視	14.8%

20

## 【DV相談状況】

相談した	47.7%
相談しなかった	44.4%

## 相談しなかった理由

「相談するほどのこともないと思った」  
61.6%(最多)

→ DV被害の認識不足が示唆される

## 【DV相談窓口の認知度】

警察	76.6%
市役所	39.4%
愛知県女性相談支援センター	23.2%

前回調査との比較 すべての相談窓口で認知度低下

21

## 【困難を抱える女性の相談窓口の認知度】

警察	58.9%
市役所	42.2%
愛知県女性相談支援センター	23.8%

## 【貧困やDV等困難な問題を抱える女性に対して市が取り組む必要があるもの】

多種多様な問題に関する相談窓口の周知	47.7%
一時保護など緊急時対応体制の整備	40.0%
専門的に支援できる相談員の配置	38.4%

22

## 【性的マイノリティに関する意識】

### 社会の生活しやすさに関する認識

生活しづらい社会だと思う	72.5%
生活しづらい社会だと思わない	25.6%

### 必要な取り組みとして

学校や保育園・幼稚園での教育充実	45.9%
相談体制の充実	43.7%
市民への啓発	39.4%

23

## 【課題】

- 男女平等感は依然として低く、特に社会全体・政治・社会通念やしきたり分野で「男性優遇」意識が強い。
- DV被害の認識不足・相談率の低さや相談窓口の認知度が低下傾向
- 貧困やDV等に直面する人は自立するために、相談窓口の周知、一時保護など緊急時対応体制の整備、相談員の配置が必要
- 性的マイノリティへの社会的な認識度は低いので教育・相談体制の充実・啓発が必要

24

## 5 男女共同参画等に関する用語について

### 【男女共同参画等に関する用語の認知度(抜粋)】

・ドメスティック・バイオレンス(DV)	81.8%	↑
・産後うつ	74.2%	↑
・ジェンダー(社会的性別)	66.2%	↑
・LGBT	54.8%	↑
・ワーク・ライフ・バランス	51.0%	↑
・男女共同参画社会	33.7%	↑
・ <u>地域共生社会</u>	19.8%	
・ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	8.3%	↑
・ <u>SOGI(ソジ)</u>	3.2%	
・ <u>日進市パートナーシップ制度</u>	2.9%	

下線 :新しい設問  
↑ :前回から増加

25

### 【課題】

- 男女共同参画に関する用語の認知度は全体的に上昇しており、社会的関心の高まりがうかがえる。
- 一方で専門的・新しい用語の認知度は依然として低く、また世代間格差も大きいので、啓発活動が必要である。

26

## 6 行政の取り組みについて

### 【女性意見の市政反映について】

◆反映されている 35.3% (前回調査 36.6%)

◆反映されていない 22.7% (前回調査 16.4%)

性別で比較

男性 43.8%、女性 29.3% → 男女間の意識差あり

27

### 【女性意見が反映されていない理由】

「市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」 40.9%

「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」 26.7%

28

## 【男女平等な社会を実現するために行政が力を入れること】

「子育て、介護に関するサービスを充実する」	36.8%
「政策決定の場に、女性を積極的に登用する」	36.3%
「労働時間の短縮など、男女がともに多様な 生き方を選択できる環境を整備する」	36.2%

### 男女別の特徴として

女性：「子育て、介護サービス充実」のニーズが特に高い

共通：「ワーク・ライフ・バランス」の実現を重視

働き続ける環境づくりが求められている

29

### 【課題】

- 男女はともに子育てや介護に関わる意識の醸成
- 社会全体でのワーク・ライフ・バランス実現のための意識改革と制度整備
- 政策決定の場への女性登用の推進
- 行政の意識改革と多様な意見の反映

30

# こども調査結果(抜粋)

31

## 【男子と女子の係の役割】

「性別で係の役割が決まっている」 23%

「性別で係の役割が決まっていない」 59.1%

## 【学校や家での男女の役割】

「女(男)の子だから〇〇しなさい」と言われた経験

「ない」 59.2%  
 「あまりない」 17.8%  
 「少しある」 13.1%  
 「ある」 9.9%

誰から  
言われたか



母親 36.0%  
 父親 14.2%  
 祖母 7.1%

32

## 【性別役割分担認識】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」

「賛成」 12.5% &lt; 「反対」 87.5%

性別で比較

賛成 女性7.4%、男性18.7%



市民意識調査と同様に、「男は仕事、女は家庭」といった性別による役割分担意識は女性に比べ男性に強く見られる。

33

## 【男女共同参画関連用語の認知度】

「ジェンダー」	56.4%
「LGBT」	45.2%
「DV」	32.6%
「男女共同参画社会」	29.9%

→ 全ての項目で女性の認知度が高い

意識調査との比較

子どもの方が認知度が低い

34

**【課題】**

- 男女間での役割分担意識は見られる。  
性別役割観への賛成は少数派であり、男性の方が賛成傾向が強い。
- ジェンダーや男女共同参画に関する認知度・意識には男女差が見られる。女性の方が全般的に認知度が高い。
- 家庭内での親からの影響が性別役割意識の形成に大きく関与